

フランスへの憧れ—生活・芸術・思想の日仏比較— —概要—

田 中 琢 三*

第15回国際日本学シンポジウム「フランスへの憧れ—生活・芸術・思想の日仏比較—」は、2013年7月6日（土）・7日（日）の2日間にわたってお茶の水女子大学で開催された。本シンポジウムは、比較日本学教育研究センターの研究プロジェクト「近現代日本におけるフランス文化の影響—文学、思想、芸術の領域において—」（担当：田中琢三）の一環であり、我が国におけるフランス文化の受容の多様性を明らかにすること、開国以来150年の歴史を持つ日仏文化交流の特色と意義を再検討することを目的とした。1日目の〈セッション I〉は、衣食住や大衆娯楽など生活文化におけるフランスの影響、2日目の〈セッション II〉は、20世紀を中心にフランスの芸術や思想の受容について検討した。

プログラムは以下の通りである。

〈セッション I〉

日時：2013年7月6日（土）13：00—17：50
場所：お茶の水女子大学 共通講義棟 2号館 101号室

司会：中村俊直（お茶の水女子大学）

[講演]

宇田川悟（作家）「フランス料理の日仏交流 150年」

[研究発表]

西岡亜紀（東京経済大学）「宣教師が運んだフランス—長崎・築地・横浜の近代」

田中琢三（お茶の水女子大学）「中原淳一と 1950年代初頭のパリ」

安城寿子（お茶の水女子大学大学院生）「クリスチャン・ディオール受容小史 —ある抵抗にいたるまで—」

北村卓（大阪大学）「宝塚歌劇におけるフランスのイメージ『バルサイユのばら』の成立をめぐる—」

[パネルディスカッション]

司会：本間邦雄（駿河台大学）

〈セッション II〉

日時：2013年7月7日（日）11：00—17：30
場所：お茶の水女子大学 共通講義棟 2号館 101号室

・午前の部

司会：古瀬奈津子（お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター長）

[特別講演]

芳賀徹（静岡県立美術館館長、東京大学名誉教授）「ポール・クローデルと大正日本—詩人として、大使として—」

・午後の部

司会：田中琢三（お茶の水女子大学）

[講演]

野村喜和夫（詩人）「日本現代詩とポストモダンの思想」

[研究発表]

ローラン・テシュネ（東京藝術大学）「アンサンブル室町：21世紀の新しい教育」

有田英也（成城大学）「加藤周一—雑種文化論—に見るフランスと日本」

* お茶の水女子大学

アレクサンドル・マンジャン (お茶の水女子大学) [パネルディスカッション]
「フランス語圏の生存主義者たちと宮本常一：比較研究」 司会：岩切正一郎 (国際基督教大学)